

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

観光資源を磨き上げた観光地域づくりプロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道白糠郡白糠町

3 地域再生計画の区域

北海道白糠郡白糠町の全域

4 地域再生計画の目標

本町は、北海道東部に位置し、南北に3本の河川が太平洋に注ぎ、その流域に市街地を形成している峡谷型の山村である。基幹産業は第1次産業で、農業は酪農、林業は素材生産を主体とし、漁業は鮭やカニ、ししゃもを主とした海面漁業が営まれているが、第1次産業を取りまく環境は厳しく、従事者の所得向上と高齢化に伴う担い手対策が喫緊の課題となっている。

本町では現在、地域の強みである、冷涼な気候や日照時間の長さなど、地域に賦存する豊かな地域資源を活かし、第1次産業の再興と振興を図り、足腰の強い産業基盤を構築するとともに、魅力あるまちづくりを進めている。

また、平成27年には北海道横断自動車道白糠ICが開通し、道央圏をはじめ道内の各主要都市との間で高速交通ネットワークが形成され、アクセスの利便性が向上したことは、人の流れを拡大させる大きな要因となるものと捉えている。

その様な中で、アイヌ文化については、以前からその重要性を認識し、様々な事業を展開してきたが、その魅力や価値を十分に活かしきれていないことから、その文化の伝承と保存に加え、観光面での活用を図る方策として、この時機を逃さず、白糠町創生総合戦略の施策として、アイヌ文化の活動拠点施設であるチセを改築し、その核となるアイヌ文化の古式舞踊、伝統音楽及び料理体験など、幅広い事業活動を展開することにより、安定的な収入を確保し、協会等の自立を図っていくとともに、交流人口の増加に繋げていく。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
観光客入込数	730,000人	20,000人	20,000人	25,000人
チセの利用者数	1,200人	300人	300人	1,200人

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分 の累計
観光客入込数	25,000人	30,000人	120,000人
チセの利用者数	1,500人	1,500人	4,800人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

白糠町では、舞踊、音楽、食等の貴重なアイヌ文化を再認識し、価値を高める事業を推進してきたが、観光等の地域産業への活用はできていないことから、地方創生加速化交付金を活用し、民間事業者と連携したアイヌ文化の舞踊等の体験を核とした観光プログラムの調査・開発、首都圏でのプロモーション事業等に取り組んでいる。プログラムの開発や受け入れ体制を整備し、既存するアイヌ文化を磨き上げた新たな観光事業を行うことにより、安定的な収入を確保し、事業者の自立を図っていくとともに、交流人口の増加による地域活性化を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

1 事業主体

北海道白糠郡白糠町

2 事業の名称：

観光資源を磨き上げた観光地域づくりプロジェクトに伴うチセの改築

3 事業の内容

白糠町では、交流人口の拡大を図ることを目的として、地方創生加速化交付金を活用し、民間事業者と連携したアイヌ文化の体験等を核とした観光プログラムの調査・開発、首都圏でのプロモーション事業などを実施している。事業の検証を行う中で、既存のチセ（アイヌ文化の活動拠点施設）では、教育旅行誘致等による多人数に対応できないことや、老朽化（築24年）による冬季間使用できないなどの不便さや機能不足が事業展開の隘路となっていることから、多様な利用形態に合わせた施設の利便性、体験プログラムに対応した施設に改築することで、新たな事業の展開による交流人口の増加や、通年利用に対応し、安定的な収入を確保することで、自主財源による自立を図る。

4 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

チセでの体験プログラムや舞踊、音楽等の見学による観光客の受入れ、関連新商品の開発による物販及びアイヌ料理提供などのイベントを行うとともに、チセを拠点に、将来的に民間企業を取り込んだ経済交流につなげ、教育旅行などの各種ツアーのルートに本施設を盛り込む事により誘客を行う。また、本年11月に友好交流提携を締結した台湾先住民との交流を観光へと発展させ、通年にわたって安定的な収入を確保し、施設整備後3年を目途に自主財源による自立を図る。

【官民協働】

白糠町は、チセの改築を行うとともに、ソフト事業の調整、企画・計画策定及び各種支援を行い、町の補助を要しない体制整備支援を行う。民間事業者はターゲットとなる旅行者のニーズ把握、旅行業者との調整、情報提供等を行う。

【政策間連携】

東京都荒川区、北海道及び釧路管内1市6町1村で実施している「北海道くしろ地域・東京特別区交流推進事業」と連携することで、更なるプロモーションを図る。また、平成27年度より実施している、ふるさと納税の返礼品にアイヌ文化体験プログラムを取り入れる事により、交流の量（交流人口）、質（滞在時間や宿泊日数）を向上させる。

【地域間連携】

北海道移住体験「ちょっと暮らし」において、長期滞在者が北海道で一番多い釧路市と連携し、グリーン・ツーリズムの切り口で、滋養強壮・疲労回復の効果があるアイヌ料理をPRすることでリピーターの増加が見込める。また、アイヌ政策を推進している、釧路市阿寒町・弟子屈町と連携・情報交換し、観光客ニーズに応じた施策を検討する。

5 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
観光客入込数	730,000人	20,000人	20,000人	25,000人
チセの利用者数	1,200人	300人	300人	1,200人

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分 の累計
観光客入込数	25,000人	30,000人	120,000人
チセの利用者数	1,500人	1,500人	4,800人

6 評価の方法、時期及び体制

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を企画総務部企画財政課が取りまとめて、白糠町総合戦略推進会議を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。また、必要に応じて事業内容等の見直しや改善を行う。検証結果は町ホームページで公表する。

7 交付対象事業に要する経費

① 第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 187,500千円

8 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日（5ヵ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) ウェルカム道東道オールくしろ魅力発信事業

事業概要：道東道の釧路延伸を契機とした地域活性化に「オールくしろ」で取り組んでいくため、国・市町村・民間団体が緊密に連携を図ることを目的として設置した協議会において、イベントプロモーション・メディアプロモーション等を行い釧路圏域の誘客を図る。

実施主体：ウェルカム道東道オールくしろ魅力発信協議会

事業期間：平成28年4月～平成31年3月（31年度以降の取組はI C開通を考慮し、検討する）

(2) くしろ圏観光キャンペーン推進事業

事業概要：釧路管内8市町村と北海道及び民間団体で構成する「くしろ圏観光キャンペーン推進協議会」を設立し、首都圏をメインターゲットとして、くしろ地域特有の自然・食資源・アイヌ民族の魅力的文化等の地域の強みを生かした観光プロモーションを展開し、教育旅行の誘致等、くしろ地域の交流人口の拡大を図る。

実施主体：くしろ圏観光キャンペーン推進協議会

事業期間：平成28年4月～平成33年3月

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

定量目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、白糠町総合戦略推進会議において結果について評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。

目標1

観光客入込数については、町が毎年度3月末時点で実績集計により把握する。

目標2

チセの利用者数については、町が毎年度3月末時点で実績集計により把握する。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度6月を目途に、重要業績評価指標（KPI）をもって事業の効果測定を行う。

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
観光客入込数	730,000人	20,000人	20,000人	25,000人
チセの利用者数	1,200人	300人	300人	1,200人

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分 の累計
観光客入込数	25,000人	30,000人	120,000人
チセの利用者数	1,500人	1,500人	4,800人

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、議会での検証が終了した時点で町ホームページにより公表する。